

モニタリングチェックシート（平成26年度）

<評価>

優：特記すべき実績・成果が認められるもの

良：管理運営が良好と認められるもの

要改善：一部において改善を要する点が見受けられるもの

施設名	石神井障害者地域生活支援センター
指定管理者名	社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会
評価者	障害者施策推進課長

評価項目および評価の視点	評価	評価理由・改善すべき点等
1 効率的運営・効率化への取り組み <ul style="list-style-type: none"> 事業計画書で提案されたとおり事業が実施されているか 計画的な予算執行であるか 管理業務費の経理および実費負担金等については、適正な処理を行っているか(チェックリストの活用) 帳簿等を整備して、管理業務費の執行状況等を記録しているか 収納した金銭等の取扱いについて、管理体制を構築しているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 基本協定や事業計画書に基づく事業運営がなされている。 計画的な予算執行、会計処理の帳簿整理等が行われている。 実費負担金(事業の参加費等)は、適正に管理されている。
2 施設管理運営体制 <ul style="list-style-type: none"> 物品購入および再委託の際に、区内業者の活用に努めているか 設備・備品の保守点検等管理を適切に行っているか 練馬区環境メンテナンスシステムの趣旨を踏まえた業務を行っているか 職員配置は協定を遵守しているか 職員について区内雇用の促進を図っているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 物品購入等における区内業者の活用に努めている。 設備・備品の保守点検等の管理を適正に行っている。 職員配置は協定を遵守し、適正な運営体制を整えている。
3 サービスの維持・向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> 現在のサービス水準を維持し、向上に向けた取り組みを進めているか 利用者ニーズに対応できる事業を適切に実施しているか 苦情処理の規程と体制を整備し、苦情があった際に適切かつ迅速に対応しているか 地域との連携を図って事業を実施しているか 人権についての職員研修を行うなど、職員の育成に努めているか 	優	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談支援では、関係機関との連絡調整件数は年間3,000件(前年度の2倍)を超え、利用者が抱える課題解決への対応や、利用者の意向に沿った適切な支援につなぐ役割を果たしている。 親の介護に関する対応や悩みを相談したいという利用者の要望を取り入れた「介護者のつどい」等、利用者のニーズに沿った新規事業を充実させ、その事業を利用者主体で運営できるよう支援している。 利用者が地域のお祭り等へ参加するほか、近隣施設(えーる等)の事業補助や日常の清掃活動等を通して、積極的に地域と交流を図っている。
4 法令遵守等 <ul style="list-style-type: none"> 職員の採用選考および勤務条件について、関係法令を遵守しているか 緊急時のマニュアルを区と協議して整備し、緊急時には適切な措置を講じているか 練馬区情報セキュリティポリシーに定める水準と同等もしくはそれ以上の水準を保障する対策を講じているか 個人情報保護条例等に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか(チェックリスト、マニュアル等の活用) 情報公開条例等に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> 職員の採用選考等について、関係法令を遵守している。 緊急時等のマニュアルを整備し、必要な訓練等を実施している。 情報セキュリティポリシーおよび対策マニュアル等を定め、研修や職員会議を通じて周知徹底に努めている。 個人情報保護、情報公開等の規程を設け、チェックリスト等を活用し、適正な取扱いを行っている。
5 利用者評価等 <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート等の評価は良好か 運営協議会の評価は良好か 	良	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートおよび運営協議会からの評価は良好である。
総合評価 <p>(講評)</p>	良	<ul style="list-style-type: none"> 項目全般について区が求める水準を満たしている。 利用者が主体的に活動に参加するための生活支援プログラム等を充実させることで、就労実習の参加や就労継続支援事業所への利用など、利用者の日中活動の場を広げる支援を実施している。 商店街主催のお祭りへ参加するなどの地域活動への参加を通して、継続的に地域と交流しており、地域住民の障害への理解の促進が図られている。